

2年目に入ったナロジチ再生菜の花プロジェクトは、いよいよバイオエネルギー生産体勢に入る。3月末に名古屋港から送り出したバイオディーゼル製造装置は、すでにウクライナのオデッサ港に到着、政府の許可を得てナロジチに搬入する準備に入っている。しかし、ここにきてプロジェクトは大きな壁に突き当たっている。旧ソ連の官僚制による許認可の壁である。何をすることも行政の認可が要る。当然時間がかかるが、めげずにプロジェクトの実現に努力したい。2008年はプロジェクト全体の正念場でもある。皆様の応援をお願いしたい。

### ● 菜の花栽培の状況

昨年秋に播種した秋撒きナタネは今、花盛りを終えて種が付き始めている。昨年の春蒔きナタネと比べてどのような結果になるかは、今後分析で明らかになる。また、2年目の春撒きナタネは天候の影響で少し遅れ、5月9日に播種した。順調に生育中で、6月～7月には開花の予定である。ナタネは連作障害があり、同じ畑に毎年作付けはできないため、ナタネ栽培後はライ麦、その後は蕎麦などを植え、4年目に再びナタネ栽培になる。そのため、畑は合計12ヘクタール必要である。昨年の春撒きナタネの後に植えたライ麦も順調に育っている。ナタネ以外の作物はバイオガスなどの原料に利用できる。このプロジェクトはバイオディーゼルとバイオガス製造を連結させ、資源と廃棄物を循環利用するのが最大のメリットで、このシステム自体が実験である。

### ● バイオディーゼル油製造装置を輸送

このプロジェクトの中核をなす菜種油からバイオディーゼル油（BDF）を作る装置は、約半年間国内外の装置を調べ、山形県のMSD社が開発した「BDK-200II」という装置に決定した。ドイツなどヨーロッパ製は規模が大きく我々のニーズに合わない。ウクライナ製はまだ試験段階で製品としての完成度が低い、というのがその理由である。BDK-200IIは、3.5時間で200リットルのBDFを生産できるので、一日2回運転すれば400リットルのBDFを生産でき十分実用性もある。我々の試験畑で取れる菜

種油では2週間ほどで使い切ってしまうほどの生産能力がある。従ってその後は農家との契約栽培などを考えなければならない。このBDF製造装置は、3月末に名古屋港からウクライナのオデッサ港に向けて輸出され、5月はじめにはオデッサに到着した。しかし、ナロジチに搬入出来るのは6月10日過ぎの予定である。遅れた理由はウクライナ政府の許認可制にある。

### ● 立ちふさがった規制の壁

これまでも医薬品や医療器械などの救済物資はウクライナ政府内閣所属の「人道支援委員会」の許可が必要であった。今回もそれに従う。ところがBDF製造装置の支援にはこの委員会から「待った」がかかった。20年近くの救済活動ではじめてのことである。理由は「バイオディーゼルなどは、利益を生む恐れがあるので人道支援とは認められない」というのである。我々はナロジチでの土壌浄化と農業復興を目指してこのプロジェクトを始めた。当然BDFやバイオガスは現地の人々に還元することが前提である。現地との契約にもそのことは明記されている。しかし、人道支援委員会はこれを認めない、という。こうしたやり取りが1ヶ月も続き、日本政府（在ウクライナ日本大使館）の応援もあって、これらの装置の所属を農業大学にし、実験用という名目でなら認可する、ということで決着した。最近になり、BDF装置の運転にもまた別の認可が要る事が分かった。こうした許認可が今後山ほど待ち構えている。先が思いやられる。それでも我々はあきらめない。（河田）